

ニホンミツバチの珍しい宮巢

市野 弘・岡田 一次

清水市郊外の山間地に「ミツバチの珍しい巢があるから来てみて下さい」という連絡があったので、市野は早速、カメラを持って現地へ出かけてみた。その時、撮影した写真が岡田の手元に届き、市野は諸事情の聴き取り調査を行った。岡田はふと、「類似の事例」が日本海新聞に出ていたことを思い出し、比較検討をする機会を得たので、その概要を報告したい。

(a) 清水市の宮巢例

宮巢地

静岡県清水市中河内 2, 640 番地 (通称: 遠品島, 上)

家主: 中根 章

この地は清水市興津から約 10km の山間地に入った川沿いの場所。家の裏はすぐ山と連なる。付近は竹藪、杉・桧などを含む雑木林で、急な傾斜の谷間である。

宮巢の様子

始めは家の前の石垣付近 (柿の木がある) で昭和 60 年 (1985) 頃か、スズメバチが少し飛んできたので、家主は子供たちに注意してい

た。間もなく二階屋の軒先に巢を作った。翌 61 年から 2~3 年間は空巢であったようだ。

平成 1~2 年 (1989~90) の頃、家主が気の付かない内にミツバチがこの巢に入って、ブンブンしていた。その後、2 回ほど逃去と思われる行動があった。巢には古いものと、別に、新しいもの (図 1) の 2 つがある。家主の話から市野が推察すると、これはキロスズメバチの巢で、ミツバチが入った初期の頃は完全な状態。下の方に 2 か所の出入口があり、蜂はここから野外活動をしていた。蜂の数が多くなってきた頃、スズメバチの巢の下半分が崩れ落ちた。ミツバチの最盛期には蜂数は多く、夜も羽音が耳さわりました。夏には蜂は部屋の内まで入ってきて、たまに刺された。蜂の体色は黒っぽく、養蜂家の飼っているものより小さかったという。これは間違いなくニホンミツバチ (日本蜂) であろう。

付近の古老の方々に蜂の話聞いてみた:

「この地ではキロスズメバチは人家の軒下などに多く宮巢する。すぐ前の家では、天井裏に日本蜂の巢ができ、下向きに垂れ下がっていた」。この付近には、西洋蜂の飼育者はいないと思われる。

岡田は、清水市のスズメバチ古巢利用のミツバチ写真を拝見した時、子供の頃 (大正初期・1916)、生家 (兵庫県美方郡浜坂町、日本海沿岸の町) の裏二階の軒下にキロスズメバチの巢が毎年のようにでき、友人が刺されて寝込んだことなどを思い出した。この蜂は近年、日本各地で人体への刺害を引き起こしている。巢の使用は 1 年限りで、晩秋以降は空巢になる。

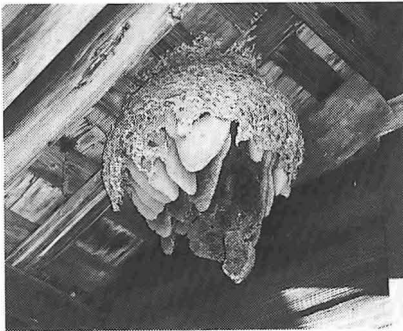


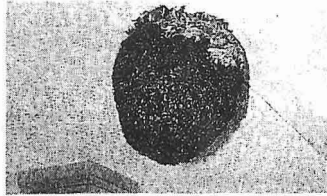
図 1 ニホンミツバチの自然巢
(キロスズメバチの古巢の中)

“空き家、ミツバチ占拠”

スズメバチの巣 ハチ蜜城に変身

日野郡日南町神福、土木工
事会社、日下組(日下貞光社
長)で、事務所玄関の天井に
あるスズメバチの巣に、最近
ある「ミツバチ集団」が押し寄せ
て占拠、球状のハチ蜜(ハチミツ)
城が出現して話題になっている。
スズメバチが球状の巣を作
ったのは三年前、巣は直径四
十センチある大きなもの。昨年
スズメバチが巣を壊して、
その後「空き家」になって
いた。
今年六月初めごろ、ミツバ
チ約五十匹がこの巣の周辺で

日野郡日南町神福、土木工
事会社、日下組(日下貞光社
長)で、事務所玄関の天井に
あるスズメバチの巣に、最近
ある「ミツバチ集団」が押し寄せ
て占拠、球状のハチ蜜(ハチミツ)
城が出現して話題になっている。
スズメバチが球状の巣を作
ったのは三年前、巣は直径四
十センチある大きなもの。昨年
スズメバチが巣を壊して、
その後「空き家」になって
いた。
今年六月初めごろ、ミツバ
チ約五十匹がこの巣の周辺で



ミツバチが占拠したスズメバチの巣

図2 ニホンミツバチの珍しい営巣(日本海新聞、平成2年7月20日)

(b) 鳥取県の場合

岡田は、鳥取市在住の安藤隆一氏から送られてきた日本海新聞の平成2年(1990)7月20日付の紙上で表題と類似の事例を見た。

“空き家”ミツバチ占拠

スズメバチの巣 ハチ蜜城に変身
という大活字の見出しで、写真入りのものであった(図2)。

内容としては、鳥取県日南町会社事務所の天井裏にあるスズメバチの巣に“ミツバチの集団”が押し寄せて占拠して、話題となっている。

新聞記事の内容や写真を通して、岡田は「ミツバチはニホンミツバチ(日本蜂)、スズメバチはキイロスズメバチであることは疑う余地もない」と考えた。この事例では、日本蜂の巣が大きく成長し、逆にキイロスズメバチの古巣の方を一部が残すだけとなっている。

営巣習性について

ミツバチ属の昆虫の中には熱帯アジアに野生するオオミツバチのように大木の枝、山の岸壁に営巣する種類がいる。同地域には瀟木などのプッシュの中に住む小形種のコミツバチも分布している。この両種は野外の開放空間で営巣する。これに比べ、セイヨウミツバチとトウヨウミツバチ(日本蜂を含む)の野生群は分蜂直後、一時的に樹の枝などに自然巣を作ることはある

が、元来の本質的な性質としては大木の空洞、墓や石造りの場所の内部、人家の天井裏、木製の空き箱など、うす暗い閉鎖空間の場合が通例である。珍しい例といえるが、解放空間での営巣も認められ報告されている。

今回、上述したニホンミツバチの2例は、人家の軒下に営巣したものであった。場所としての環境では今一步、暗い方が良く、このためキイロスズメバチの巣の外壁はその好条件に一致している。しか

し、日本蜂の群勢が強くなって巣が拡大すると、スズメバチの巣の外壁が邪魔になるに違いない。日本蜂の巣が小さい内は別として、拡大すると付着部分を直接、軒の木の場所に付着させることが必要となろう。

キイロスズメバチの古巣の方は放って置いても蜂がいらないため支障ないであろうが、ニホンミツバチは働き蜂の数が多くなるので刺害の心配が少しはある。巣の中には天然の貯蜜は予想でき、誰も採取してみたくなる。

ニホンミツバチの上述のような営巣は珍しい例と思われるが、日本全国には類似の巣は他にもあるのではないだろうか。

今回の興味ある取材は清水市中河内の中根章氏のご好意によるもので、本誌の紙面をかりて、お礼を申し上げたい。

(市野: 〒424-24 清水市承元寺町 82

岡田: 〒194 町田市玉川学園 6-1-1 玉川大学)

ICHINO, HIROSHI¹ and OKADA, ICHIJ². Japanese honeybees living in hornet nest. *Honeybee Science* (1994)15(3): 123-124. 1) 82, Shogenji-cho, Shimizu-shi, Shizuoka, 424-24 Japan; 2) Tamagawa Univ., Machida-shi, Tokyo, 194 Japan

The authors described interesting nesting site of the Japanese honeybee, *Apis cerana japonica*. Two examples of the honeybees using the vacant nests of the hornet (*Vespa similima xanthoptera*) as their nesting site were shown.